	<b>丁業高等</b>	専門学校	開講年度	平成31年度 (2	2019年度)	授	 業科目	英語 I B			
			, ,,,,,,,,	( /		_, -^		,			
<u>- 10 至 元</u> 科目番号	.113112	0007			科目区分		一般 / 必修				
授業形態		授業			単位の種別と単位	数	履修単位				
開設学科		一般教科(	人文科学系)		対象学年		1				
開設期		通年			週時間数	2					
教科書/教材	才	be English	Expression I Ac	書店be English Exp	pressio	n I Adva	nced Workbook いいずな書店				
担当教員		皆方 紀夫									
到達目標	į										
2. 教科書で 3. 日英後の	ご扱った会詞 D音の違い(	舌表現の使いア	5を理解し、実際の	ティングやスピーキ の会話で使用するこ 発音を区別するこ	Fングに運用できる ことができる。 ことができる。	۰					
レーブリ	ック		Г		1						
			理想的な到達レイ	標準的な到達レベルの目安(良)			未到達レベルの目安(不可) 				
評価項目1			教科書で扱った。 を理解し、ライキングに運用で	教科書で扱った文法事項の使い方 を理解し、辞書や文法書を参照す れば、ライティングやスピーキン グに運用できる。			教科書で扱った文法事項の使い方 が理解できない。				
評価項目2			教科書で扱った。 を理解し、実際の ことができる。	教科書で扱った会話表現の使い方 を理解し、実際の会話で使用する ことができる。			教科書で扱った会話表現の使い方 を理解することができない。				
評価項目3			日英後の子音の違いと母音の違い について理解し、聞き分けでき、 発音を区別することができる。 日英後の子音の違いについて理解 し、聞き分けでき、発音を区別す ることができる。				日英後の発音の違いについて理解 することができない。				
学科の到	達目標項	目との関係	Ŕ <u> </u>								
教育方法	 :等										
文法事項 <sup>1</sup> 概要 また、ここ より具体 (1) 英林 (2) 英林			では、中学校で既習の文法事項や構文を定着させるとともに、高等学校学習指導要領に示されているレベルの や構文を新たに習得することを目標としている。 こで扱う文法事項や構文を用いたさまざまな言語活動を通じ、総合的な英語力の育成を目指す。 的な目標は次の2点である。 険準2級一次試験合格レベルの文法知識とリスニング能力の習得 検準2級二次試験の英語での応答のための基礎の確立 業は基本的に次の流れで進めていく(学生の理解度等により、授業内容や進度を変更する場合もある)。								
		一定	の点数に満たなか	がなどから出題。授 いった場合、再テス	業の内容の定着を トの受験、もしく(	図る。 は課題の	の提出を課	! <b>す</b> 。			
受業の進め	方・方法	に (2) 教一 を を を を が が が が が が が が が が が が が	の点 書 別 書 別 会 は 会 は 会 は 会 に 一 元 導 う 。 き 、 で き れ 文 、 会 、 会 、 ま 来 、 会 、 会 、 会 、 会 、 会 、 会 、 会 、 会 、 会 、	いった場合、再テス 単元のペースで進 動る。 記んで、当該単元で 出近して、当該単元で は近して、当該単元で ででに沿って、 級の練習問題を行ってリークの成果を発 でフークの成果を発 して用い、定期的に ははition)も基本的に いら授業に臨むのが	トの受験、もしく( めていく。 学習する文法事項の) で扱う文法事項の) ディング、ライティー う場合もある。 場合てもらうららってもらもらうらららいでは自学自習用の教 がましい。また、打	は課題なと会話を含べている。はででは、おいまでは、これででは、これでは、これでは、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これに	表現を導入 図る。 リスニン る。教科書 つからなか	する。また、日本語とは違う音の発 グ、スピーキングの4技能のトレー よりも詳しい文法の解説が載ってい った点、取りこぼした点を復習する			
	方・方法	に (2) (2) (2) (2) (3) (4) (5) (4) (5) (5) (4) (5) (5) (6) (7) (7) (7) (8) (7) (9) (9) (9) (9) (9) (9) (9) (9	の点 書 内 は 高 芸 が は に 一 で に で 、 で き れ 文 ・ で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 会 、 会 、 会 、 会 、 会 、	いった場合、再テス 単元のペースで進 動んで、当該単元で 記んで、当該単元で 記して、当該単元で ででに沿って、 の練習問題を行う のの、定期を いって用い、もいのが はでいるが いら授業に臨むのが がった内容から出 でいるで、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 で	トの受験、もしく( めていく。 学習する文法事項の で扱う文法、事項のディンとのでが、 うましてもらうもののである。 場合てもでもらもらもらもいるでは自学は自学はできるが、 はは自が、さまざる。 はなりない。	は課題で と	表現を導入 図る。 リスニン る。教科書 つからなか	する。また、日本語とは違う音の発			
主意点		に (2) (2) (2) (2) (3) (4) (5) (4) (5) (5) (4) (5) (5) (6) (7) (7) (7) (8) (7) (9) (9) (9) (9) (9) (9) (9) (9	の書の点 書の点 書の点 要に 一次に 一次に 一次に 一次に 一次に 一次に 一次に 一次に 一次に 一次	いった場合、再テス 単元のペースで進 動んで、当該単元で 記んで、当該単元で 記して、当該単元で ででに沿って、 の練習問題を行う のの、定期を いって用い、もいのが はでいるが いら授業に臨むのが がった内容から出 でいるで、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 で	トの受験、もしく( めていく。 学習する文法事項の で扱う文法、事項のディンとのでが、 うましてもらうもののである。 場合てもでもらもらもらもいるでは自学は自学はできるが、 はは自が、さまざる。 はなりない。	は課題で と	表現を導入 図る。 リスニン る。教科書 つからなか	する。また、日本語とは違う音の発 グ、スピーキングの4技能のトレー はよりも詳しい文法の解説が載っていった点、取りこぼした点を復習する 力を問う問題を出題する場合もある			
主意点		に (2) (2) (2) (2) (3) (4) (4) (5) (4) (5) (6) (7) (7) (8) (7) (8) (9) (9) (9) (9) (9) (9) (9) (9	の点 書 内 は 高 芸 が は に 一 で に で 、 で き れ 文 ・ で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 会 、 会 、 会 、 会 、 会 、	いった場合、再テス 単元のペースで進 動んで、当該単元で 記んで、当該単元で 記して、当該単元で ででに沿って、 の練習問題を行う のの、定期を いって用い、もいのが はでいるが いら授業に臨むのが がった内容から出 でいるで、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 で	トの受験、もしく( めていく。 学習する文法事項の で扱う文法事項のがディング、 う場合でもある。場合で 表してして自りもららの教 が好ましい。また、対 題するが、さまざる 課60%、授業態度	は と	表現を導入 図る。 リスニン る。教科書 つからなか	する。また、日本語とは違う音の発 グ、スピーキングの4技能のトレー はよりも詳しい文法の解説が載っていった点、取りこぼした点を復習する 力を問う問題を出題する場合もある 題の結果を40%で評価する。学年総合			
注意点		に (2) (2) (2) (3) (4) (4) (5) (5) (6) (7) (7) (8) (7) (8) (9) (9) (9) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1	の書 書 で 書 で は で に で に で に で に で に で に で に で に で に で に で で に で で に で で に で で で で で で に で で で で で で で で で で で で で	いった場合、再テス 単元のペースで進 動んで、当該単元で 記んで、当該単元で 記して、当該単元で ででに沿って、 の練習問題を行う のの、定期を いって用い、もいのが はでいるが いら授業に臨むのが がった内容から出 でいるで、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 で	トの受験、もしく( めていく。 学習する文法事項の で扱う文法事項の ディング、うましてもらうもの 表してして自習用の教 がよりましい。また、対 題するが、さまざる 課60%、授業態度	は と Eイ ち 材受 ま 、 週 語 をグ る あで 英 テ と	表現を導入 図 る。	する。また、日本語とは違う音の発  グ、スピーキングの4技能のトレー  はよりも詳しい文法の解説が載っていった点、取りこぼした点を復習する  力を問う問題を出題する場合もある  夏の結果を40%で評価する。学年総定			
注意点		(2) 名 (2) 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	の書 書 で 書 で に が に で に で に で に で に で に で に に で に で に で に で に で に で に で に で に に で に に に に に に に に に に に に に	いった場合、再テス 単元のペースで進 動んで、当該単元で 記んで、当該単元で 記して、当該単元で ででに沿って、 の練習問題を行う のの、定期を いって用い、もいのが はでいるが いら授業に臨むのが がった内容から出 でいるで、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 で	トの受験、もしく( めていく。 学習する文法事項の で扱う文法、事項のな ディング、 う場合である。 ももしてもものものものである。 表し出して自習また、 は自覚い。また、 類するが、さまざる 課60%、授業態度	は と	表現を導入 図 J ス ニン る。	する。また、日本語とは違う音の発 グ、スピーキングの4技能のトレー はよりも詳しい文法の解説が載っていった点、取りごぼした点を復習する 力を問う問題を出題する場合もある 夏の結果を40%で評価する。学年総会			
注意点		(2)	の書 書 書 で 書 が に で に で に で に で に で に に で に に で に に に に に に に に に に に に に	いった場合、再テス 単元のペースで進 動んで、当該単元で 記んで、当該単元で 記して、当該単元で ででに沿って、 の練習問題を行う のの、定期を いって用い、もいのが はでいるが いら授業に臨むのが がった内容から出 でいるで、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 で	トの受験、もしく( めていく。 学習する文法事項のデディング、 つまりでディング、 つまからもあららものものものものものものものがました。 は自当学はは自当なが、 さまざい またのが、 授業態度 またのが、 大学 変換 である。 大学 である。 大学 である。 大学 である。 大学 である。 大学 できるが、 大学 変換 できるが、 大学 変換 できるが、 大学 変換 できる かい 大学 変換 できるが、 大学 変換 できる かい アンド・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	は と	表現を導入 図 3。	する。また、日本語とは違う音の発 グ、スピーキングの4技能のトレー はよりも詳しい文法の解説が載っていった点、取りこぼした点を復習する 力を問う問題を出題する場合もある 題の結果を40%で評価する。学年総合			
注意点		(2)	の書の 書の 書の 書の 書の 表 を もれ文 もれ文 もれ文 もれ文 もれ文 もれ文 もれ文 もれ文 もれ文 もれ文	いった場合、再テス 単元のペースで進 動んで、当該単元で 記んで、当該単元で 記して、当該単元で ででに沿って、 の練習問題を行う のの、定期を いって用い、もいのが はでいるが いら授業に臨むのが がった内容から出 でいるで、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 で	トの受験、もしく( めていく。 学習する文法事項のでが、 で扱う文法。ライティンの場合もあら、場合でしてもあららりの。 法提出学のでは自習用のが、 は自学のでは、さまざい。 はは自なが、 できまざい。 はは自なが、 授業態度	は と her と は受 ま 、 週 授 現過 課 会 着ン あ で業 な 小 ご 業 在去 題 話 をび、 る あで 英 テーと の 形や	表現を導入 図	する。また、日本語とは違う音の発 グ、スピーキングの4技能のトレー なよりも詳しい文法の解説が載っていった点、取りこぼした点を復習する 力を問う問題を出題する場合もある 題の結果を40%で評価する。学年総算			
主意点 受業計画		(2)	の書の点の 書の点 書の点 を 書の点 を まで を まで まで まで まで まで まで まで まで まで まで まで まで まで	いった場合、再テス 単元のペースで進 動んで、当該単元で 記んで、当該単元で 記して、当該単元で ででに沿って、 の練習問題を行う のの、定期を いって用い、もいのが はでいるが いら授業に臨むのが がった内容から出 でいるで、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 で	トの受験、もしく(めていく。学習する文法事項のでが、方法事項のでが、方式、ラークでが、方式、ラークでが、方式のでは自分のでは、対しては自分のでは、対しては自分のでは、対しては自分のでは、対しては自分のでは、対しては自分のでは、対しては自分のでは、対しては、対しては、対しては、対しては、対しては、対しては、対しては、対して	は と b d で業 な 小 _ ご 業 在去在題 話 をグ 、 る あで 英   テ   と の   形 や 完	表現を導入 るの ない。 ない。 ない。 ない。 ない。 ない。 ない。 ない。	する。また、日本語とは違う音の発  グ、スピーキングの4技能のトレー  はよりも詳しい文法の解説が載っていった点、取りこぼした点を復習する  力を問う問題を出題する場合もある  題の結果を40%で評価する。学年総証  平価の仕方について説明する。  ご表現を使うことができる。 ことができる。			
主意点 受業計画	i	(2)   (2	で 書 で 書 で を は で に に で に で に で に で に で に で に で に で に で に で に で に に で に で に に で に で に で に に で に に で に に に に に に に に に に に に に	いった場合、再テス 単元のペースで進 動んで、当該単元で 記んで、当該単元で 記して、当該単元で ででに沿って、 の練習問題を行う のの、定期を いって用い、もいのが はでいるが いら授業に臨むのが がった内容から出 でいるで、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 で	トの受験、もしく( めていく。 学習する文法事項のでが、大変でで、 で扱う文法のででが、 のでが、 のでが、 のでが、 のでが、 のでが、 のでが、 のでが、	は と 宜く ち 材受 まこ、 週 授 現過現過課 会 着ン あ で業 な 小 ご 業 在去在去題 話 をグ る あで 英 デーと の 形や完完	表現を導入 るの まの まの まの なの 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	する。また、日本語とは違う音の発  グ、スピーキングの4技能のトレー  はよりも詳しい文法の解説が載っていった点、取りこぼした点を復習する  力を問う問題を出題する場合もある  夏の結果を40%で評価する。学年総証  平価の仕方について説明する。  なができる。  な表現を使うことができる。  ることができる。  そ完了形を使うことができる。			
主意点 受業計画	i	(2)	の点の 書の点 書の点 書の点 書の点 で表す。 に一でである。 にである。 には一でである。 にでる。 にで。 にでる。 にでる。 にでる。 にでる。 にでる。 にでる。 にでる。 にでる。	いった場合、再テス 単元のペースで進 動んで、当該単元で 記んで、当該単元で 記して、当該単元で ででに沿って、 の練習問題を行う のの、定期を いって用い、もいのが はでいるが いら授業に臨むのが がった内容から出 でいるで、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 で	トの受験、もしく( めていく。 学習する文法事項の でが、方式を表示で、 で扱う文グ、 の表示で、 の表示	は と 宜く ち 材受 まし、 週 授 現過現過助課 会 着ン あ で業 な 小 ご 業 在去在去動題 話 をグ る あで 英 テーと の 形や完完詞	表現るJ るD ま現るJ 。からの、、 一型が使来形形で で表ででする。 で表ででする。 で表ででする。 で表ででする。 で表ででする。 で表ででする。 で表ででする。 で表ででする。 で表ででする。 で表ででする。 で表ででする。 で表ででする。 である。 でる。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 で	する。また、日本語とは違う音の発  グ、スピーキングの4技能のトレー  はりも詳しい文法の解説が載っていた点、取りごぼした点を復習する 力を問う問題を出題する場合もある 夏の結果を40%で評価する。学年総合  「表現を使うことができる。 ことができる。 こことができる。 こことができる。 こことができる。 こことができる。			
主意点 受業計画	i	(2)	の点 書の点 書の点 書の点 書の点 表示 表示 表示 表示 表示 表示 表示 表示 表示 表示	いった場合、再テス 単元のペースで進 がある。当該単元でで ででででである。当該単元でででででででででででででででででででででででででででででででででででで	トの受験、もしく( めていく。 学習する文法事項の ディング、カステーク ・表し出するでディング、カスの ・表し出するの ・表し出するが、おきまざる ・課にはするが、接業態度	は と ffu と が受 ま 、 週 授 現過現過助上課 会 着ン あ で業 な 小 ご 業 在去在去動記題 話 をグ る あで 英 テーと の 形や完完詞項	表現を導入 るり るり るり るり るり るり るり るり ない ない ない ない ない ない ない ない ない ない	する。また、日本語とは違う音の発 グ、スピーキングの4技能のトレー はよりも詳しい文法の解説が載っていった点、取りごぼした点を復習する 力を問う問題を出題する場合もある 夏の結果を40%で評価する。学年総は 要 呼価の仕方について説明する。 ができる。 で表現を使うことができる。 ことができる。 で完了形を使うことができる。 に復習し理解する。			
主意点 受業計画	i	Canal Ca	で は で で で で で で で で で で で で で で で で で で	いった場合、再テス 単元のペースで進 がある。当該単元でで ででででである。当該単元でででででででででででででででででででででででででででででででででででで	トの受験、もしく(めていく。学習する文法事項のでが、を表している。学習する文法事項のでディンの表し、表しているので、表しているのでである。場合ののでは、表しているのでは、ましているでは、ましているでは、ましているでは、ましているでは、ましているでは、ましている。このでは、ましているでは、ましているでは、ましているでは、ましている。このでは、ましているでは、ましているでは、ましているでは、ましては、ましているでは、ましているでは、ましているでは、ましているでは、ましているでは、ましているでは、ましているでは、ましているでは、ましているでは、ましているでは、ま	よ と 全イ ち 材受 ま 、 週 授 現過現過助上上課 会 着ン あ で業 な 小 ご 業 在去在去動記記題 話 をグ る あで 英 テ と の 形や完完詞項項	表現を導入 るの	する。また、日本語とは違う音の発 グ、スピーキングの4技能のトレー はよりも詳しい文法の解説が載っていった点、取りこぼした点を復習する 力を問う問題を出題する場合もある 題の結果を40%で評価する。学年総合できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。			
主意点 受業計画	i	Canal Ca	の点 書の点 書の点 書の点 書の点 表示 表示 表示 表示 表示 表示 表示 表示 表示 表示	いった場合、再テス 単元のペースで進 がある。当該単元でで ででででである。当該単元でででででででででででででででででででででででででででででででででででで	トの受験、もしく(めていく。学習する文法事項のでが、を表している。学習する文法事項のでディンの表し、表しているので、表しているのでである。場合ののでは、表しているのでは、ましているでは、ましているでは、ましているでは、ましているでは、ましているでは、ましている。このでは、ましているでは、ましているでは、ましているでは、ましている。このでは、ましているでは、ましているでは、ましているでは、ましては、ましているでは、ましているでは、ましているでは、ましているでは、ましているでは、ましているでは、ましているでは、ましているでは、ましているでは、ましているでは、ま	よ と 全イ ち 材受 ま 、 週 授 現過現過助上上課 会 着ン あ で業 な 小 ご 業 在去在去動記記題 話 をグ る あで 英 テ と の 形や完完詞項項	表現を導入 るの	する。また、日本語とは違う音の発 グ、スピーキングの4技能のトレー はよりも詳しい文法の解説が載っていった点、取りごぼした点を復習する 力を問う問題を出題する場合もある 夏の結果を40%で評価する。学年総は 要 呼価の仕方について説明する。 ができる。 で表現を使うことができる。 ことができる。 で完了形を使うことができる。 に復習し理解する。			
主意点 受業計画	i	Canal Ca	で は で で で で で で で で で で で で で で で で で で	いった場合、再テス 単元のペースで進 がある。当該単元でで ででででである。当該単元でででででででででででででででででででででででででででででででででででで	トの受験、もしく( めていく。 学習する文法事項ので で扱う文文、事項イティラ もあらもらもので ままして自習用を、 は出世学い。 さまざい はまるが、 授業態度 は 1860%、 授業態度	は と 全イ ち 材受 ま 、 週 授 現過現過助上上前課 会 着ン あ で業 な 小 ご 業 在去在去動記記期題 話 をグ る あで 英 テ と の 形や完完詞項項中	表現 るつ 文 ス の 進 を未了了を目目間間 は を まって	する。また、日本語とは違う音の発  グ、スピーキングの4技能のトレー  はりも詳しい文法の解説が載っていった点、取りこぼした点を復習する 力を問う問題を出題する場合もある 夏の結果を40%で評価する。学年総会  「表現を使うことができる。 ことができる。 ころことができる。 こことができる。 こことができる。 ころことができる。 ころことができる。 ころことができる。 ころことができる。 ころことができる。 ころことができる。 ころことができる。 ころことができる。			
主意点 受業計画	i	(2)	で書の 書の 書の 書の 書の では 音の では では では では では では では では では では	いった場合、再テス 単元のペースで進 がある。当該単元でで ででででである。当該単元でででででででででででででででででででででででででででででででででででで	トの受験、もしく( めていく。 学習する文法事項のでで扱う文法のででが、 で扱う文法のでででででででででででででででででででででででででででででででででででで	よ と 全イ ら 材受 ま 、 週 授 現過現過助上上前 助課 会 着ン あ で業 な 小 ご 業 在去在去動記記期 動題 話 をグ る あで 英 テーと の 形や完完詞項項中 詞	表現 るつ な ス の 進 を未了了を目目間間 を使 まこと で まま	する。また、日本語とは違う音の発 グ、スピーキングの4技能のトレー はよりも詳しい文法の解説が載っていった点、取りこぼした点を復習する 力を問う問題を出題する場合もある 題の結果を40%で評価する。学年総合 要性の仕方について説明する。 は表現を使うことができる。 ことができる。 ことができる。 ことができる。 ことができる。 ことができる。 ことができる。 ことができる。 こだできる。 こだできる。 こだできる。 こださる。 こださきる。			
主意点 受業計画	i	(2)   (2	で書の 書の 書の 書の 書の 書の 書の まで まで まで まで まで まで まで まで まで まで	いった場合、再テス 単元のペースで進 がある。当該単元でで ででででである。当該単元でででででででででででででででででででででででででででででででででででで	トの受験、もしく( めていく。 学習する文法事項ので で扱う文法ので で で で で で で が かっと いっと で で で が かっと いっと で で が かっと いっと で で が いっと で で が いっと で で が いっと で で が いっと で で で で が いっと で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	は と br く ち は受 ま 、 週 授 現過現過助上上前 助助課 会 着ン あ で業 な 小 ご 業 在去在去動記記期 動動題 話 をグ る あで 英 デーと の 形や完完詞項項中 詞詞	表 図	する。また、日本語とは違う音の発 グ、スピーキングの4技能のトレー はよりも詳しい文法の解説が載っていった点、取りこぼした点を復習する 力を問う問題を出題する場合もある 題の結果を40%で評価する。学年総合できる。 は表現を使うことができる。 ことができる。 ことができる。 に変習し理解する。 に学習した内容の理解度を確認する。 理説と解答 にができる。 にができる。 に対してはいてはいます。			
前期	j 1stQ	(2)   (2	で は で で で で で で で で で で で で で で で で で で	いった場合、再テス 単元のペースで進 がある。当該単元でで ででででである。当該単元でででででででででででででででででででででででででででででででででででで	トの受験、もしく( めていく。 学習する文法事項ので で扱う文グ、 るのでで でがって るので でがって でがって るの るので でがって きょう はいました いっぱ はいました はいました はいました はいました はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいま	は と b d で業 な 小 週 授 現過現過助上上前 助助受課 会 着ン あで業 な 小 ご 業 在去在去動記記期 動動動題 話 をグ る あで 英 デーと の 形や完完詞項項中 詞詞態	表 図	する。また、日本語とは違う音の発  グ、スピーキングの4技能のトレー  はよりも詳しい文法の解説が載っていった点、取りこぼした点を復習する  力を問う問題を出題する場合もある  夏の結果を40%で評価する。学年総行  平価の仕方について説明する。  できる。  ま現を使うことができる。  ことができる。  できる。  でできる。  でできる。  でできる。  でできる。  でできる。  でできる。  でできる。			
主意点 受業計画	j 1stQ	(2)   (2)   (2)   (2)   (3)   (4	で書の 書の 書の 書の 書の 書の 書の まで まで まで まで まで まで まで まで まで まで	いった場合、再テス 単元のペースで進 がある。当該単元でで ででででである。当該単元でででででででででででででででででででででででででででででででででででで	トの受験、もしく( の の の の の の の の の の の の の の で が の の の の	は と 定く ち は受 まこ、 週 授 現過現過助上上前 助助受 S課 会 着ン あ で業 な 小 ご 業 在去在去動記記期 動動動の題 話 をグ る あで 英 デーと の 形や完完詞項項中 詞詞態の	表 図 U るつか 文 ス の 進 を未 了 了 を 目 目 間 を を を を と S V の 進 を 未 了 了 を 目 目 間 に 使 使 使 ウ O に 試 使 使 使 ら O に い の の こ こ こ と で と S V の 角 で こ C の の の の の の の の の の の の の の の の の の	する。また、日本語とは違う音の発 グ、スピーキングの4技能のトレー はよりも詳しい文法の解説が載っていった点、取りこぼした点を復習する 力を問う問題を出題する場合もある 題の結果を40%で評価する。学年総合できる。 は表現を使うことができる。 ことができる。 ことができる。 に変習し理解する。 に学習した内容の理解度を確認する。 理説と解答 にができる。 にができる。 に対してはいてはいます。			

		16ì	<b></b>	は験の	 )解説と解答		前期期末試験の解説と解答および授業アンケート						
後期		1週	L	esso	esson 10			不定詞を使うことができる					
		2週	L	esso	n 11			不定詞を使うことができる					
		3週	L	esso	n 12			不定詞を使うことができる					
	340	4週	L	esso	n 13			動名詞を使うことができる					
	3rdQ	5週	L	esso	n 14			不定詞と動名詞を使い分けることができる					
		6週	L	Lesson 15				分詞を使うことができる					
		7週	ā	大験文	策		上記項目の内容を復習し理解する。						
		8週	至	]達度	を試験 (後期中	中間)		上記項目について学習した内容の理解度を確認する。					
		9週	ā	t験σ	解説と解答		後期中間試験の解説と解答						
		10ì	- も L	esso	esson 16			分詞を使うことができる					
		11ì	<u></u> し	esso	n 17			関係詞を使うことができる					
	4thQ	12ì	围 L	esso	esson 18			関係詞を使うことができる					
		13ì	围 L	esso	sson 19			関係詞を使うことができる					
		14ì	<b>围</b> 討	(験文	策			上記項目の内容を復習し理解する。					
		15ì	<u></u> 至	]達度	を試験 (後期其	式験(後期期末)		上記項目について学習した内容の理解度を確認する。					
		16ì	<b>劃</b> 討	は験の	解説と解答			後期期末試験の解説と解答および授業アンケート					
モデルニ	]アカリ	キュき	ラムの学	智	内容と到達	目標							
分類 分野				学習内容の到達目標				到達レベ	ンレ	授業週			
基礎的能力	能力 人文・社会 科学 英語			英語運用の 基礎となる 知識	中学で既習の文法や た文法や文構造を習	や文構造に加え、 習得して適切に運	高等学校学習指導要 用できる。	2					
評価割合													
試験			小テスト		課題	果題 態度		ポートフォリオ その他		合計			
総合評価割合 6		0	2			10	10	0	0		100		
基礎的能力 40		0	2			10	10	0	0 80		80		
専門的能力		(		0		0	0	0	0 0		0		
分野横断的能力		20		0		0	0	0 0		20			